

安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

【目次】

- ❖ 高圧ガス保安協会と本学とが包括連携協定を締結
- ❖ 新潟県知事からセンターが感謝状
- ❖ 内閣府主催の科学技術連携施策群シンポジウムにて講演
- ❖ センターの活動紹介 (IIC と研究事業連携協定/公開セミナー/国際シンポジウム)
- ❖ 新しい教職員の紹介、編集後記

第9号



高圧ガス保安協会と本学とが包括連携協定を締結

当センターが責任部局となって、本学と高圧ガス保安協会とが「包括連携協定」を締結することに合意し、平成19年10月18日、学長室において高圧ガス保安協会の作田会長と飯田学長との出席のもとに締結式が行われました。これにより、両者の技術知見や人材等の連携を促すとともに、両者の総合力を発揮することで、我が国の安心・安全を支える技術と人材の創出に貢献することが期待されます。

具体的には、①共同研究の推進、②学術資料・情報

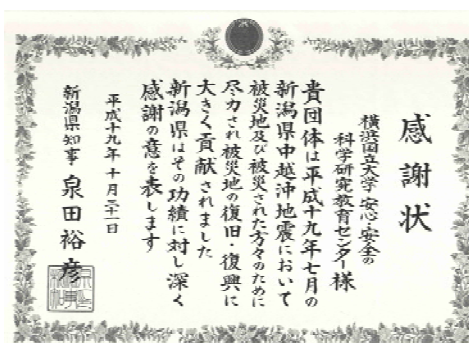
の交換、③講演会・学術セミナーの開催、④人材交流、⑤その他高圧ガスの保安分野に関する研究開発、人材育成に寄与する活動を柱として、様々な事業を推進する予定です。



中越沖地震被災地の復旧・復興支援でセンターが新潟県知事から感謝状

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震において、発災直後に泉田新潟県知事の要請を受けて、京都大学防災研究所を中心とした「新潟県中越沖地震災害対応支援 GIS チーム」が産官学民から編成され、当センターからも地震防災計画や地理情報システムに専門性をもつ古屋貴司特任教員(講師)が参加しました。この活動

では、発災3日後には神奈川県庁に Emergency Mapping Center を設置し、200種類のデジタル地図を作成して災害対策本部での状況認識統一に大きく貢献するなど、



我が国の災害対応史上初の試みも行われました。地図作成班の活動には、当センター併任の佐土原教授(環境情報研究院)研究室の稲垣景子特別研究教員も参加されました。これらの功績に対して、このたび新潟県知事より、当センターが感謝状を授与されました。本活動で得られた知見は、当センターで推進する高度リスクマネジメント

技術者育成ユニットの講義「都市リスク解析のための空間情報科学」やワークショップにも還元されています。

内閣府主催の科学技術連携施策群シンポジウムにて講演

「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用に対する各省の取り組み」

環境情報研究院と当センターが共同で行っている、文部科学省科学技術振興調整費科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤(平成19-21年度、代表 三宅淳巳教授)」と連動して、2月6日、科学技術連携施策群シンポジウム「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用に対する各省の取り組み」(日本科学未来館みらいCANホール、内閣府主催)が開催されました。化学物質の安全管理・活用に関して、各省庁での取り組み紹介の他、代表の三宅淳巳教授(環境情報研究院)か

らプロジェクトの概要や今後の展開等について講演がありました。また、総合科学技術会議の薬師寺泰蔵議員の挨拶では、化学物質リスク・安全管理の向上には、我が国が持っている研究開発ポテンシャルの向上に、大きな期待があるとの言葉をいただきました。国際連合大学名誉副学長の安井至氏からも、プロジェクトで取り組むフィジカルリスクとヒト健康リスクを併せた総合的リスク評価の重要性について、高い評価と期待の言葉をいただきました。

センターの活動紹介

当センターと石川島検査計測株式会社が 研究事業交流協定を締結

当センターと横浜市にある石川島検査計測株式会社 (IIC) は、相互の研究事業推進のために、研究事業交流協定の締結に合意しました。このことにより、安心・安全の科学に係わる研究事業分野で協力することになり、①共同研究・プロジェクトの推進、②学術、技術情報の交換、③人材の交流、④その他、安心・安全の科学に関する研究開発、人材育成等に関する活動などの事業について、お互いが協力・連携することになります。

公開セミナー等実施報告

1. 文部科学省科学技術振興調整費による新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の一環で次の公開セミナーを行いました。

「リスクコミュニケーションのあり方と課題」 (12月20日, 工学部講義棟 A107)

①慶應義塾大学商学部准教授・吉川肇子氏 から「リスクコミュニケーションのあり方と相互理解におけるギャップの乗り越え方」について、②環境情報コミュニケーションズ代表取締役・大歳幸男氏から「産業界でのリスクコミュニケーションの取り組み事例と課題と今後」についてご講演をいただきました。学内外から 88 名の方にご参加いただき、当センターの公開セミナーや教育活動への期待の声が多数聞かれました。



「安全マネジメント高度化のための新しい方法論の提案」 (1月18日, 環境情報1号棟 305室)

①岡山大学大学院自然科学研究科教授・五福明夫氏から「『機能』と安全マネジメント」について、②京都大学大学院工学研究科教授・榎木哲夫氏から「失敗事例



の高度情報処理による安全マネジメント」についてご講演をいただきました。学内外から 84 名の方にご参加

いただき、活発な意見交換が行われました。

2. 当センター併任の佐土原教授 (環境情報研究院) が中心の 1 人となり、下記の横浜国立大学国際シンポジウムを開催しました。

「生態環境リスクマネジメントにおける空間情報基盤の役割」 (10月20日, 教育文化ホール)

(主催: GCOE プログラム「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」、教育研究高度化経費プロジェクト

「GIS を基盤とした文理融合型の地域研究教育拠点形成・そのⅡ」プロジェクトチーム、当センター他)

①環境情報研究院の金子信博教授や佐土原聡教授から「横浜国立大学 GCOE プログラム『アジア視点の国際生態リスクマネジメント』の概要とその空間情報基盤」について、②レッドランズ大学研究所所長の Jordan Henk 氏らから「アメリカ合衆国からの報告」について、③清華大学環境科学与工程系の杜鵬飛副教授から「中国からの報告」について、④佐土原聡教授から、「空間情報プラットフォームについての 1 年目の検討の報告」について講演があり、⑤パネラーに環境情報研究院の金子信博教授、益永茂樹教授、国際社会科学研究所の金澤史男教授を加えてパネルディスカッションが行われました。学内外から 74 名が参加し、活発な意見交換が行われました。

新しい教職員の紹介

特任教員 (研究教員) 三宅 祐一

前職: 独立行政法人産業技術総合研究所
産総研特別研究員

これまで前職において、臭素系難燃剤などを対象として、高感度・高精度分析法の開発と国内外標準化 (JIS 化、ISO 化) に従事してきました。センターでは、科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」に携わり、化学物質トータルリスク評価の考え方の普及に貢献したいと思っています。

事務補佐員 長澤 妙子

1 月から勤務しております。センター勤務を機に、生活者視点から安心して安全な生活について考えてみたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

編集後記

- ◆当センター構成員が増え、体制が強化しました。(Y)
- ◆リスク報道のあり方が議論されはじめていますが、農薬混入事件報道を見ていると興味深いです。(T)

『ご意見やお知らせ等の記事をお寄せ下さい』

安心・安全の科学研究教育センターニュース

第 9 号 2008 年 2 月 15 日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

TEL: 045-339-3775, 3776 (社会人教育, 研究開発ほか)

045-339-3772 (高度リスクマネジメント技術者育成ユニット)

045-339-3797 (石油タンク安全管理学分野)

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: anshin@ynu.ac.jp